

エー① 平成 28 年度事業申請書

6. 事業内容	<p><2 年目></p> <p>(ア) コミュニティへの図書サービス活動</p> <p><u>1-1. コミュニティ図書館への図書の供与</u></p> <p>子ども向けにタイ語の絵本にカレン語とビルマ語の翻訳シールを貼付し供与する。成人向けには、毎月各館約 70 冊のミャンマー国内のニュース、雑誌、職業訓練や健康に関する一般教養書、小説などを供与する。これらの図書は移動図書箱活動にも利用される。</p> <p>▶ 供与図書数：子ども用図書約 1,000 冊、成人用図書約 18,000 冊</p> <p>▶ 図書館利用者数（延べ人数）：300,000 人</p> <p>※成人向け図書は、カレン族が主流の 7 か所の難民キャンプ（以下、カレン系難民キャンプ）を対象。タイ語絵本については、カレニー族が主流の 2 か所の難民キャンプ（以下、カレニー系難民キャンプ）を含めた、9 か所のすべての難民キャンプへ供与する。</p> <p>※難民キャンプの構成</p> <p>カレン系難民キャンプ：メラウ、メラマルアン、メラ、ウンピナム、ヌポ、バンドンヤン、タムヒン（7 か所）</p> <p>カレニー系難民キャンプ：バンマイナイソイ、バンメースリン（2 か所）</p> <p><u>1-2. 図書サービスの改善を目指した研修会の実施</u></p> <p>図書館員を対象に、図書館サービスの基本的な知識・技術を習得する研修会を実施する。特に 2 年目は、1 年目の研修内容を基礎とし、様々な読み聞かせ手法の習得、図書館サービスの強化に焦点を当てた研修会を実施する。</p> <p>▶ 研修会参加者人数：50 人（21 図書館の図書館員）</p> <p>※カレン系難民キャンプを対象</p> <p><u>1-3. 住民を対象にした移動図書箱配布活動</u></p> <p>キャンプ全体への図書へのアクセスの拡充を目指し、学校以外の社会施設や図書館から遠い地域住民への移動図書箱の配布活動を行い、普段図書館に来ることができない住民の読書の機会を確保する。2 年目は移動図書箱配布地区を増やす。</p> <p>▶ 図書箱配布対象箇所数：94 か所</p> <p>※カレン系難民キャンプを対象</p>
---------	--

1-4. 計画、四半期、年次会議の開催

図書館事業を管轄する教育部会、図書館委員会、図書館員、青年ボランティアと、学校教員が参加し、図書館活動の振り返りと改善を目指した会議を行う。年始に実施する計画会議では、1年間の計画を立て、3・6・9月の四半期会議に問題の提起と改善策を協議し、年末に1年間の活動の振り返りを行う。

▶ 計画会議参加人数:140人、各四半期会議:180人(年3回実施、90名×4キャンプ+60名×3キャンプ=合計540名分)、年次会議:280人

※カレン系難民キャンプを対象

(イ) 学校教育の質の改善活動

2-1. 学校教員を対象にした図書活用研修会の実施

学校教員を対象に、学習に効果的な図書の活用方法・学校教育における読書推進の手法を習得することを目指した研修を実施する。2年目は、図書利用手引きを配布し、手引きを使いながら絵本の読み聞かせ手法やおはなし会に活用できる教材の作成、図書の活用方法等を指導する。

▶ 研修会参加者:240人

(180人:カレン系7キャンプ、60人:カレニー系2キャンプ)

▶ 対象学校数:180校

※カレン系、カレニー系難民キャンプを対象

2-2. 学習参考書の提供

難民キャンプ内の中・高等学校を対象にした補助教材となる辞書・百科事典・学習参考書・英語学習図書を図書館に提供する。これらの図書は、移動図書箱活動にも利用される。

▶ 供与図書数:1,520冊(9キャンプ分)

※カレン系、カレニー系難民キャンプを対象

2-3. 学校での図書利用手引きの作成

2年目では、1年目の調査で収集した情報を元に手引きの作成を開始し、完成を目指す。

※配布は、カレン系、カレニー系難民キャンプを対象

2-4. 学校図書室設備改善

1年目に整備された図書室のモニタリングとフィードバックを踏まえた改善を行う。

▶モニタリング対象校：25校

※カレン系難民キャンプを対象

(ウ) 青年による読書推進活動の実施

3-1. 青年ボランティア育成研修会

高校生が中心に構成される青年ボランティアを対象に、読書推進活動の手法を習得することを目指す図書館青年ボランティア育成研修会を実施する。2年目は、活動地域が拡大するため、研修会参加者が増加する。

▶研修会参加者数：198人

※カレン系難民キャンプを対象

3-2. 青年ボランティアによるイベントを通じた読書推進活動

研修を受けた図書館青年ボランティアが学校や地域住民を対象にした読書推進活動を実施する。2年目は、難民キャンプ内の活動地域を増やす。また、難民キャンプ内の少数民族や障がい児を含めた脆弱層を巻き込んだ読書推進を強化し、少数民族の文化交流を含む読書推進活動を実施する。

▶活動実施回数：23回、▶活動を実施した人数：198人

※カレン系難民キャンプを対象

活動 1-1～1-4 のコミュニティ図書館の改善のための活動では、SDGs の目標 4・ターゲット 4-2、4-6 に、配架されている本が通信技術や縫製、農業に関する書籍もあることからターゲット 4-3 に、活動 2-1～2-4 での補助教材や学習参考書の活用環境の改善に伴う活動ではターゲット 4-1、4-2 に、活動 3-1・3-2 はターゲット 4-7 に貢献すると考える。

<p>7. これまでの成果、課題・問題点、対応策など</p>	<p>① これまでの事業における成果（実施した事業内容とその具体的成果）</p> <p>（ア）コミュニティ全体において図書サービスが改善されている。</p> <p><u>1-1. コミュニティ図書館への図書供与</u></p> <p>事業半期の成果として、ミャンマー（ビルマ）からの購入した成人向け図書が、9,367 冊配架された。この間の図書館利用者数は、延べ 135,730 人であり、そのうち 47,209 人（全体の約 35%）が供与図書の対象である成人であった。</p> <p>コミュニティ図書館の図書に関する住民のニーズ調査やコミュニティ図書館の図書の管理状況については、モニタリングを通して随時聞き取り調査、観察調査を行っていく。</p> <p><u>1-2. 図書サービスの改善を目指した研修会の実施</u></p> <p>この研修会は 9 月から 10 月にかけて実施を計画している。図書館員が、図書の登録方法・図書の分類・子どもに対する図書サービスの実施を含め、図書館の基礎的な手法を習得することを目指し、研修会実施へ向けた準備を進めている。</p> <p><u>1-3. 住民を対象にした移動図書箱配布活動</u></p> <p>図書館から離れた地域に住む住人を対象とした移動図書箱の提供は、計画されている 69 カ所のセクションすべてに実施した。移動図書箱の配布後、6 月以降 64 カ所で計 124 回の読書推進活動を実施しており、延べ 5,581 人の住民の参加があった。そのうち、1,515 人が図書の貸し出しを利用し、合計貸し出し図書数は 3275 冊であった。</p> <p><u>1-4. 計画、四半期、年次会議の開催</u></p> <p>6 月の四半期会議では、教育部会、図書館委員会、図書館員、学校教員、青年ボランティアの当初計画していた 86%にあたる 180 人が参加したが、指標である 90%（189 人）の参加には満たなかった。この点、難民キャンプによって図書館・教育関係者数が異なる点に配慮し、2 年目に会議参加対象者数の見直しを行った。</p> <p>会議では、図書館を改善するための提案が各キャンプで 5 つから 7 つ挙げられ、計 35 個の提案を得ることが出来た。図書館環境の整備、歌やダンスといった文化活動の推進、図書館活動の多様化、難民キャンプにいるスタッフへの研修、カレン語の図書を増やす等の提案の他、今後の難民帰還</p>
--------------------------------	---

が本格化する可能性を配慮し、カレン民主同盟 (Karen National Union/ KNU) やカレン教育局 (Karen Education Department/ KED) 等各機関との連携強化といった提案も得られた。

(イ) 教育の質を改善するための補助教材や学習参考書を活用する環境が整備されている。

2-1. 学校教員を対象にした図書活用研修会の実施

7月に実施した学校教員を対象とした研修会では、当初計画していた参加人数(240人)の97.9%である235人の教員が参加した。研修後に実施した質問紙調査(有効回答率84.2%)では、研修会参加者の74.5%が研修を通じて知識と技術を得ていることが分かった。しかしながら、指標となる80%には満たなかった。

同上の質問紙調査の結果によると、理解度がキャンプによってバラつきがあった。参加者の80%以上が知識や技術を習得したと見られる難民キャンプがある一方で、最も規模の大きいメラ難民キャンプでは、参加者の57%が知識や技術を習得したと回答を得た。次に低い値が出たキャンプはバンドンヤン難民キャンプの68%であった。

これに関して、上記2つの難民キャンプでは、参加者の70%以上が25歳以下の教員であることが分かった。その他のキャンプでは、参加者全体に占める25歳以下の参加者の人数が50%以下なのに対して、高い値が示された。

難民キャンプへの国際支援の減少傾向は、教育分野においても、人材不足や頻繁な人材の入れ替わりといった影響を与えている。またメラ難民キャンプでは、その規模の大きさから第三国定住を選択する人数も他の難民キャンプより多く、教員の低年齢化が推察される。

今年度以降の研修会では、以上のような各難民キャンプやその学校教育の事情に配慮した研修内容を提供する必要性が示唆された。

2-2. 学習参考書の提供

学校への貸し出しが可能な学習参考書、6タイトル150冊を21図書館へ供与した。またミャンマーからも1,484冊を購入し、カレニー系難民キャンプを含む9つの難民キャンプへ供与している。それぞれの難民キャンプあるいは図書館への配架は完了している。教員のニーズの聞きとりに関しては、教員を対象とした質問紙をもとに分析を進めており、今後の図書館のモニタリングを通じて、観察調査を実施する計画である。

2-3. 学校での図書利用手引きの作成

教員を対象とした図書館活用研修時に、図書利用事例を収集した。その際に実施した質問紙調査からは、授業における図書の活用だけでなく、休み時間や土曜日の補填授業での活用を想定していることが分かった。

2-4. 学校図書室設備改善

学校の図書室設備の改善に関して、メラ難民キャンプでは、すでに7校の図書コーナーの整備が完了しており、児童・生徒によって使用されている。多くの学校が建物の修繕に時間を要しており、環境設営等の準備段階であるが、現在、遅延や中止に繋がる大きな問題は見られていない。

(ウ) コミュニティでの読書推進活動への参加を通して、青年が自主的に活動できる機会が増えている。

3-1. 青年ボランティア育成研修会

6月に実施した青年ボランティア育成研修会では、計画された参加者のうち99%にあたる167人が参加した。メラ難民キャンプ、ウンピナム難民キャンプでは約30人の青年が参加し、他の5つの難民キャンプでは約20人の青年が参加した。

研修後の質問紙調査（有効回答率92%）では、参加者の78.5%が、知識と技術を習得していることが分かった。読み聞かせ、人形劇の手法については参加者の77%が、アクションソングやアイスブレーキングについては83%が知識・技術を習得しており、いずれも指標である70%を満たすことができた。また同上の質問紙によると、研修後、参加者の80%が青年ボランティアとしての役割や責任について認識していることが分かった。活動に必要な知識や技術だけでなく、人前で活動を先導する自信がついたという回答も多く得られた。

3-2. 青年ボランティアによるイベントを通じた読書推進活動

青年ボランティアによる各セクションの住民を対象にした読書推進活動は、6月の研修後の実施が開始されている。開始直後のため、各セクションの具体的な実施回数は年次報告書に記載予定である。

② これまでの事業を通じての課題・問題点

難民キャンプ全体の課題でもあるが、第三国定住や帰還、国際支援の減少

	<p>に伴う給与額の削減等（特に学校教員）により、図書館員や学校教員の離職が頻繁に起きている。人材の入れ替わりがあるため、研修実施後の知識や技術の定着が容易ではない。</p> <p>③ 上記②に対する今後の対応策</p> <p>第三国定住や帰還、国際支援の減少については、外部要因になるため対応が難しいが、研修後の知識や技術の定着については、手引きの作成や図書館員同士による定期的な知識や技術の交換会の実施、さらに当会職員のモニタリングの強化を通してサポートしていく。</p> <p>④ 「持続可能な開発目標（SDGs）」の該当目標の視点からも言及してください。 下記 8 に合わせて記載する。</p>
8. 期待される成果と成果を測る指標	<p><u>ア) コミュニティ全体において図書サービスが改善されている。</u></p> <p>1-1-1. 85%のコミュニティ図書館が住民のニーズに合致した図書を所有している。 ➤確認方法：聞き取り調査、観察調査</p> <p>1-1-2. 85%のコミュニティ図書館が図書を適切に管理している。 ➤確認方法：観察調査</p> <p>1-2-1. 計画した参加者の 90%が図書サービスの改善を目指した研修会に参加した。 ➤確認方法：活動報告書</p> <p>1-2-2. 研修会参加者の 80%が研修を通して図書館サービスについての知識と技術を習得した。具体的には、図書館運営ルール、図書貸し出し手法、データ収集・記録手法、読み聞かせ手法などの理解度・習得度を質問票を元に確認する。 ➤確認方法：研修会での質問票</p>

1-2-3. 研修会参加者の 70%が図書館サービスを適切に提供することができている。

➤確認方法：聞き取り調査、観察調査

1-3. 移動図書箱が提供されたセクションの数。2 年目：94 ヲ所

➤確認方法：活動記録

1-4-1. 計画された参加者の 90%が 計画・四半期・年次会議に参加した。

➤確認方法：活動記録

1-4-2. 7 ヲ所のキャンプの四半期・年次会議において、図書館を改善するための提案が 84 個挙げられている。

➤確認方法：会議での観察調査

上記活動（1-1～1-4）のコミュニティ図書館の改善のための活動にて、より多くの住民が良質な図書を含めた図書サービスに触れることにより、SDGs のターゲット 4-2 に掲げられている教育へのアクセスやその準備に貢献し、また 4-6 にある様な識字能力が向上すると考える。また配架されている本が通信技術や縫製、農業に関する書籍もあることからターゲット 4-3 にある技術教育・職業教育の知識を養成することにも貢献する。

（イ）教育の質を改善するための補助教材や学習参考書を活用する環境が整備されている。

2-1-1. 計画された参加者の 90%が補助教材となる図書を活用するための研修会に参加している。

➤確認方法：活動記録

2-1-2. 研修会参加者の 80%が研修を通じて知識と技術を習得している。具体的には、絵本やその他の道具を利用した読み聞かせ手法、移動図書箱活動の利用方法、学校における図書の活用手法についての理解度・習得度を質問票を元に確認する。

➤確認方法：質問票

2-1-3. 研修会の参加者の 70%が研修会で習得した知識と技術を適切に活用し

	<p>ている。</p> <p>➤確認方法：聞き取り調査、観察調査</p> <p>2-2. 70%の図書館が、教員のニーズに合致した補助教材となる学習参考書を適切に管理している。</p> <p>➤確認方法：教員ニーズの聞き取り、観察調査</p> <p>2-3. 180 校の学校に 図書利用手引きを配布されている。</p> <p>➤確認方法：活動記録</p> <p>2-4-1. 25 校の学校の図書室が整備されている。</p> <p>➤確認方法：観察調査</p> <p>2-4-2. 図書室が整備された学校の 70%が適切に図書を管理している。</p> <p>➤確認方法：観察調査、聞き取り</p> <p>上記活動（2-1～2-4）の補助教材や学習参考書の活用環境の改善に伴う活動は、SDGs ターゲット 4-1 にある質の高い初等・中等教育の質を高めることに寄与し、また 4-2 にある就学前教育レベルの子どもも活動対象に含むことから、ターゲット達成にインパクトを与えると考える。</p> <p><u>（ウ）コミュニティでの読書推進活動への参加を通して、青年が自主的に活動できる機会が増えている。</u></p> <p>3-1-1. 計画された参加者の 90%が読書推進活動に必要な知識と技術を習得するための研修会に参加している。</p> <p>➤確認方法：活動記録</p> <p>3-1-2. 研修会の参加者の 70%が知識と技術を習得している。具体的には、青年ボランティアの役割、様々な読み聞かせ手法、人形劇の実践手法、おはなし会の実践手法の理解度・習得度をアンケート調査を通して確認する。</p> <p>➤確認方法：研修前後のアンケート調査</p> <p>3-2-1. 研修会に参加した青年ボランティアが実施した各グループの読書推進活動の回数。2 年目：17 回</p> <p>➤確認方法：読書推進活動記録</p>
--	---

3-2-2. 研修会に参加した 80%の青年ボランティアが読書推進活動を実施している。

➤確認方法：活動記録

上記活動（3-1・3-2）は、青年が自主的に参加することにより文化多様性の理解等を促し、SDGs ターゲット 4-7 にある持続可能な開発のための教育に貢献する。